

統一協会との30年来のつきあい認めた

坂上議長不信任決議 自民公明が否決！ 維新の会 せんしん等は退場

12月定例会市議会が12月19日閉会しました。一般質問を佐藤みち子、野口あけみ両議員がおこない、市議会議員の期末手当を増額する条例には、まつお正秀議員が反対討論に立ちました。

また最終日に党議員団は、下記のとおり統一協会との深い関係が報道された坂上明議長の不信任決議を、無所属セッションの2名、市民クラブ改革の2名とともに提案。野口議員が提案説明を行いました。維新の会議員団、会派・ぜんしんと、川村、ひぐち両議員は退場、自民党会派の政新会と公明党の反対で否決となりました。

坂上明議長不信任決議(案)

2022年12月19日提出 (提出者) 野口あけみ 佐藤みち子 まつお正秀
一色風子 よつや薫 河崎はじめ 田中あきよ

NPO法人との間での金銭授受問題について、市民の疑惑がまだ晴れず、2022年6月議会には疑惑解明の進展を求める陳情が出された坂上明議長だが、今度は旧統一協会との深い関係が、11月15日、ネット配信記事で報道された。

今や、旧統一協会は多額の献金の強要や靈感商法など違法な行為を行ってきた反社会的団体であることは明らかであり、被害者救済や宗教法人としての認可取消しが取り沙汰される事態となっている。そのような旧統一協会と自民党は、半世紀にわたって関係を続け、結果として自民党は旧統一協会の反社会的活動を庇護してきた。

記事では坂上議員と旧統一協会の関係が3点指摘され、自身が下記のように取材に答えている。

- ① 2020年2月に旧統一協会は関連団体とともに「ワールドサミット2020」などを韓国で開催した。これは元信者によると合同結婚式で、このイベントに50～60人の地方議員が参加。兵庫県からは少なくとも7人が参加しておりその一人が坂上明議長である。

これに対し坂上明議長は「旧統一協会の誘いで韓国に行ったのは事実、合同結婚式があるとは知らなかった」旅費は「6万円くらい用意したが、『今回は結構です』と言われ先方が払ってくれた」

- ② 選挙支援については、「18年かその前の統一地方選で、推薦はがきを10枚か20枚、お願いしている。選挙はそれだけだ」

- ③ 「秘書時代から懇意の方に誘われ年に2回くらいイベントに出席している。自民党の派閥の領袖を務めた先生の秘書からで30年近く前から、その後3人の国会議員に秘書として仕えた。4人の先生いずれも旧統一協会とは何らかの関係があった。旧統一協会のイベントに何度も出席した。そういう関係から韓国にも誘われた」

以上のように、坂上明議員は取材に対し、旧統一協会との深い関係を認めている。政治家として旧統一協会との深いつきあいを認め、真摯に反省するなら、議長を辞職する以外にない。

坂上明議員が議会を代表する議長の役職をこのまま続けることは、西宮市議会の名誉を傷つけるものである。

よって、ここに坂上明議長の辞任を勧告するとともに、不信任を決議する。

党議員団はネット配信記事が判明した時点で、よつや、一色両議員とともに、「説明」と「議長辞職」を求める申し入れをしていました。議長は12月6日、「質問があれば事実に基づいて誠実に説明する」「議長はやめる必要はない」と回答していました。

市民からも説明と辞職を求める趣旨の陳情が提出され、12月16日開催の議会運営委員会で議長と統一協会の関係について質疑されました。

統一協会に「お墨付き」
自覚も 反省もない

議長は、「靈感商法を行ったこともないし選挙支援を受けたこともない。

(注：記事では選挙はがきを依頼したとある) イベントに招待があったから参加しただけのこと。どうして責められないのかかわからない」「(取材に) 今後関わらないようにしたいといったのは反省からではなく、自民党の方針なので従うだけだ」などとししました。

統一協会は信者の人権を抑圧し靈感商法などで深刻な被害をもたらしており、政治家のイベント参加や祝電は、統一協会やその活動に「お墨付き」を与え、被害を拡大することにもつながります。

そうした社会的影響を一切顧みない無自覚さにはあきれます。

子どもたちにもう一人保育士を！



一般質問に立った佐藤みち子議員は、国の保育士配置基準は1948年、戦後まもなく定められ、3歳児は50年以上、4、5歳児は74年間変わっていないことを指摘し、このことについての市の認識を質問しました。

市は、保育所保育指針の改定の際には、保育指針に定める保育内容を実際に行えるよう、保育所の職員配置、施設設備等に関する基準を必要に応じて見直すこととされていることから、国の動向を注視していくと答弁しました。

佐藤議員は、「保育所保育指針はこれまでに4回改定され2018年の改定では入所している子どもの保育に加えて、保護者支援や地域の子育て支援という新たな役割が増えているが、配置基準は変わっていない。市は現行の基準で良いと考えているのか」と再質問。市は、現行の基準で保育指針に基

づく新たな役割を果たせる対応になっていると答弁しました。佐藤議員は現場からは「今の基準では求められる役割を十分に果たすことはできない」との声が出されており、市独自で配置基準を見直すよう、強く求めました。

学校給食費無償 4月からも継続せよ

市は9月補正予算で、物価高騰に直面する子育て世帯を支援するため、2022年10月から2023年3月末まで国の交付金を使って学校給食費を無償にしました。佐藤議員は、4月からは市独自で給食費無償を継続すべきと質問しました。

市は、国の支援が示されていない状況では無償化は困難と答弁。佐藤議員は市の総予算の1%で可能であり、子どもたちに優先して予算を使うことは当然だと指摘しました。

高齢者 補聴器購入助成創設を



野口あけみ議員は、高齢者の補聴器購入助成制度創設について2021年9月議会に続いて質問。

物価高騰のもとで後期高齢者の病院窓口負担2倍化、年金引き下げなど国の政治に苦しめられてい

る高齢者を市が支援すべきだが、高齢者交通助成制度の廃止でさらに追い打ちをかけている。せめて、県下では4市町が実施している補聴器購入費助成制度を創設すべきと求めました。

市は「公平性や財源に課題があり、国や県の動向を見る」と答弁しましたが、野口議員は、「70歳以上では7割以上の方が難聴であり、公平性は当たらない、明石市並みに実施しても経費はわずか960万円だ」と反論しました。

介護保険制度大改悪を許すな！

次に野口議員は、2024年度からの介護保険事業計画策定について質問。厚労省は年末までに①介護保険サービスの利用料2〜3割負担の対象拡大もしくは原則2割負担、②要介護1、2の保険給付を自治体ごとの総合事業に移行、③ケアプランの有料化について議論を取りまとめ、2023年の通常国会での法改正を狙っています。

これまでも介護保険制度は改定のたびに負担が増えて給付は減らされ、「保険あって介護なし」と言われてきましたが、今回の改定内容も「史上最悪」と評価されるような大改悪です。

野口議員は「負担が増えれば利用が減るのでは」と質問しましたが、市は「改定内容の詳細が不明であり答えられない」という不誠実な答弁に終始しました。

また、この改定には介護事業者も利用者も「過去の積み上げを破壊し先人たちの努力を踏みにじる」「制度の根幹を揺るがす」と反対の声を上げていることを紹介し、市も「反対の声を国に届けるべき」と追及。市長は、「内部で検討する」と答弁しました。

「介護改悪しない」の請願 否決に！！

自民、公明、維新、会派・ぜんしんの反対

市民からは「市議会として介護保険改悪に反対する意見書を国に提出してほしい」という請願が出され審査されましたが、賛成少数で否決となりました。委員会では「持続可能な制度とするため」などと反対の理由が述べられましたが、負担増給付減ではまさに「保険あって介護なし」です。

なお、大きな反対世論によって要介護1、2の総合事業への移行と、ケアプラン有料化は24年度改定では見送られました。

議員のボーナス増額に反対

今議会、議員の期末手当（ボーナス）を0.1か月増やす議案が提案されました。

民間給与にも連動する地方公務員の期末手当等を、国家公務員に準じて引き上げることは法的根拠があるものです。しかし議員の手当をそれに準じて引き上げる根拠はなく、中核市ではトップクラスにある西宮市の議員報酬をさらに引き上げるべきではないと、党議員団はこの議案に反対しました。また、この議案に関連した補正予算に対し、会派の無所属セッションとともに引き上げ分を削減する修正案を提案しましたが、賛成少数で否決されました。